

上越ケーブルビジョン
平成 29 年度 第 2 回番組審議会
議事録

日時:平成 30 年 4 月 16 日(金)14:00～15:00

場所:JCV2F 会議室

出席者 審議委員表記順:会長、副会長、委員(五十音順)

○直原 幹 会長 ○池田弘 副会長
○小林 美佐子 委員 ○齊京 貴子 委員 ○佐藤 隆義 委員

(上越ケーブルビジョン)

○放送担当取締役 植木 悦
○放送部 部長 福島良章
○放送部 放送課 課長 佐藤康司
○放送部 放送課 課長 沢田真紀

1. 開会
2. 挨拶 放送担当取締役 植木
3. 放送番組審議会進行内容説明 資料にて
4. 委員長、副委員長挨拶
5. 議事

(1) 新番組「NEXT」の配信スタートについて

(佐藤)

上越・妙高出身者で首都圏にて活躍する方々も多い。ふるさとを離れて活躍する人たちを紹介したいと思い始めた番組。首都圏のみならず故郷に関わりのある全国の人たちにご覧いただくためテレビだけでなくネット「上越妙高タウン情報」でも配信する。テレビでは、週に4回放送、対象は首都圏で働く20代から50代。なぜ首都圏を選んだのかという部分だけでなく、地元とのかかわり、故郷への思いを描く。基本はインタビュー形式。若い方へのメッセージになるとよい。5月は、バレーボール選手の新井雄大選手、6月は安塚区出身のイベントプロデューサー高波由多加さんを紹介。

(池田副会長)

取材対象者はどうやって探すのか。

(佐藤)

過去、取材した方のリストや、社員の知り合い、地域の高校、同窓会などを通じての紹介。

(池田副会長)

番組の定着とともに輪が広がっていきそうで楽しみ。

(佐藤)

積極的にPRを行い広めていきたい。

(直原会長)

一ヶ月間、同じ人の再放送になるか。

(佐藤)

繰り返し放送することで番組視聴を定着させたい。

(福嶋)

番組を通じて上越妙高地域と首都圏との繋がりも築いていけたら。また、地元と首都圏とのビジネスモデルのきっかけも作れたら。どんどんブラッシュアップしていきたい。

(直原会長)

番組内でお店の地図があつたりすると立ち寄ってみたいと思う。

(2) レルヒ祭 生中継について

(佐藤)

新年最初の大きな中継。ここ数年は音楽祭の模様を見せる形だが、レルヒ少佐を顕彰する地元にとって大切なイベントでもある。高齢者など現場に行けない方にも冬の上越ならではの現場の映像をご覧いただきたいと思い放送。

(佐藤委員)

レルヒ祭は、日中もイベントがあるが、放送しないのか。

(佐藤)

日中の音楽ステージを収録し中継に挟み込んだ。

(福嶋)

翌日も開催するイベントなので、前日に放送することによって翌日の集客に繋がったり、インターネットサイト「上越妙高タウン情報」でもレルヒ祭の記事をアップしたりした。

(池田副会長)

スカイランタンが中止になりメインがなくなったことをどのようにカバーしたのか？放送尺の調整が難しかったのでは。

(佐藤)

今回のレルヒ祭のメインであるスカイランタンは、少しの風で中止になることを事前に把握していたので、他の部分でカバーできる様、事前にコンテンツを用意していた。

(3)4K 映像での特別番組制作について

里山のふとこ「地方の時代」映像祭で優秀賞

(佐藤)

桑取谷に一年間足を運んで制作したこれまでにない番組。映像祭は1980年からはじまったコンテスト。地域だからこそできる映像がこれまでに5149作品寄せられている。今回は、ケーブルテレビ部門で優秀賞を受賞。これをきっかけにNHKから放送の打診があった。また、海外でも流したいということ

で4月21日と22日にNHKワールドでも放送することに。これまで一年もの時間をかけて撮りためるということは出来なかったが、反響の大きさを実感している。

(福島)

NHKからテレビ放送を通して全世界に上越の地域映像が届けられる事による反響を期待している。

(佐藤委員)

本当に良い出来で、失礼ながら地方のケーブルテレビにしてはとても良い番組。1時間、しっかり見る事ができた。

(斎京委員)

録画もして観たが、周囲の声を聴くとJCVではなくNHKが放送しているという感覚でとらえる人が多かったようだ。もっとJCVの番組であることをアピールしたほうが良い。もったいない。

(佐藤)

自社媒体のTV・FM・NET・紙面・手配りチラシ等での告知を実施したが、更なる告知手段を引き続き検討して行きたいと思う。

(斎京委員)

桑取地区ではアンテナ受信によるテレビ視聴が不可能なためJCVに加入している方が多い。このような時にこそ積極的に番組の告知をしてほしい。

(4)アーカイブ映像の活用について

(佐藤)

過去に撮りためた映像を活用していこうと、ニュースの中で昔の映像を紹介することから、まずは、開始した。昔の懐かしい風景や活動など、タイミングを見て随時、放送して行きたい。アーカイブ映像を活用した番組としての初回放送は、22年前の観桜会の様子を紹介した。アーカイブ素材は、22年前の4月11日に収録した観桜会開幕イベントのオープニングセレモニー。(高田駅前広場にて)地域の映像をアーカイブ化する事も、地元ケーブルテレビならではの役割だと感じている。

(直原会長)

アーカイブ化に要する時間は、どれくらい？

(福島)開局から32年間の映像を取り込むだけで、現在の体制(2人)で約8年かかる為、まずは、優先順位を決めてアーカイブ化に取り組んでいる。

(5)「ハイブリッドキャスト」新サービス導入について

(佐藤)

4月2日から開始した新サービス。データ放送の進化版。テレビとインターネットをつないだもので、既に運用しているインターネットサイト「上越妙高タウン情報」の記事がパソコン・スマートフォンを利用しない方でもテレビを通じて見られるようにした。インターネットに繋がっていて、ハイブリッドキャスト対応のテレビで利用可能。

(直原会長)

PRは？

(佐藤)

自社媒体を通じて実施中。

(池田副会長)

ハイブリッド対応テレビとは、どのようなテレビ？今後の展開は？

(福島)

4K対応のテレビでは、だいたい利用が可能。ハイブリッドキャストを使い今後、4K動画の配信テストなどを実施しながら加入者に満足いただける(便利に感じて頂ける)サービスを検討して行きたいと思う。

(6)ケーブルテレビ連盟信越支部各局連携について

(佐藤)

インターネットサイト「ぐるっと信越」は、JCVが加盟する日本ケーブルテレビ連盟信越支部に加盟する信越地区各局が参画する取り組み。去年の桜の時期に合わせて信越の桜状況を信越地区各局のライブカメラを纏めたサイトをメインコンテンツとして開設したところ、一定のアクセス数があった。そこで、通年を通じて各局のウェブカメラに追加して、桜以外でも春夏秋冬、花鳥風月の映像などをアップし、観光誘客にもつなげて行こうとする取り組み。更に、通常のカメラ撮影に加えて、360度を撮影できるVRカメラを使った映像や、ドローン映像などを各社からアップしている。今後は、信越地区と他エリアとの連携や、さらに世界の方々に見ていただけるサイトにすることが長期的な視点での目標。

(7)その他

(池田副会長)

良い番組を作っている。番組の詳細な部分が番組表だけではわかりにくく、より一層の告知を望む。

(佐藤委員)

高田公園の桜をインターネットで紹介するなど、番組を制作する側も大変だと思う。ただ番組数を増やすのではなく、今回の桑取の番組の様なしっかりとした番組を今後も作ってもらいたい。

(小林委員)

色々なJCVの取組にとっても感心した。当地域は、観光の予算が少ないので、民間の各ケーブルテレビ局が連携する企画など、引き続き露出してPRしてほしい。

(斎京委員)

知ろうと思わない限り情報が流れてこない。もったいないと思う。何が一番見てもらえるか、せっかく良い番組を作っているのが情報が伝わるように頑張してほしい。

(直原会長)

契約者はどのような年齢層か？ターゲットがずれているのか？

(植木)

テレビの視聴環境の主流は、60～70代。若者は全てネットに流れている。ただ全く見ないわけでは

ない。誰をターゲットに番組を制作したらよいか頭をなやませるところ。通信と放送の融合が重要だが、ハイブリッドキャストは、まさにその取り組み。

(福島)

ケーブルテレビは、近年までコンテンツをテレビサービスのコミチャンで放送することを主流にコンテンツ制作をしてきた。昨今のCATVサービスでは、テレビに加えて、インターネット、FMも自社媒体にあるのが特徴。この強みを活用して幅広い年齢層に当社のコンテンツに接触していただける様に取り組んでいきたい。一方、ネットでの情報とテレビでの情報の違いは「信頼性」である事が、調査機関情報として公表されている。テレビ放送が創業の当社。テレビに期待されている情報配信にも引き続き強化して行く。

(直原会長)

ネットと融合するとコミュニティの概念が変わる。「NEXT」などがその象徴。有名人ではない上越出身者を発掘してほしい。人材発掘を楽しみにしている。

7 閉会

議事録署名人 直原 幹



議事録作成人 上越ケーブルビジョン 沢田真紀

